

中学クラス希望の生徒・保護者のみなさまへ

当塾の中学クラスを希望の生徒・保護者のみなさまには地元公立高校への進学を切望される方が多く、「できれば高陽高校へ」「最低、高陽東高校ぐらいは・・・」という声をよく頂戴します。

しかしながら、今や高陽東高校は人気校であり、定員数を減らした高陽高校ともども受験倍率が高いうえ、数年前から導入された思考力を試す記述重視の新傾向問題による入試問題の難易度も高く、かつてのような暗記重視の受験勉強だけでは簡単に合格できません。おまけに令和5年の公立高校入試からは、従来の、2月に選抜Ⅰ・3月に選抜Ⅱという、2段階選抜が廃止され、全員が3月の一次選抜のみでの受験となる予定です。

なお、その新入試制度における一次選抜ですが、従来の選抜Ⅰ・Ⅱに代わる形で、一般枠、特色枠（こちらが選抜Ⅰの代わりで、各学校ごとに、学力的には一般枠で合格できない生徒でも合格しやすいルールに変更することができるはず・・・？ ※入学定員の最大50%）が設けられるようですが、一般枠の場合、調査書：学力検査：自己表現＝2：6：2となり、さらにはその調査書も中1：中2：中3＝1：1：3となりますから、当日の入試でいかに点を取るかが従来以上に重要になってきます。

では「どうすれば、希望の高校に合格しやすくなるのか？」というと、結局は、1年生の最初から勉強面・生活面で真面目に頑張り続けるということに尽きます。要は課題提出等の決まり事を日々きっちりとこなし、また、高陽東高校に合格したいなら定期テストで5教科合計350点以上、高陽高校なら400点前後、祇園北高校なら425点以上、安古市高校なら450点以上を取るようになればいいわけです。もちろん定期テストだけでなく、実力テスト等の模擬試験においても、各高校を受験するに値するだけの点数を取ることが従来以上に必要となってきます。

そのため、私の一番の仕事は、日々の指導を通じて志望校合格に必要な学力を着実に定着させていくことになるわけですが、ただ志望校に合格さえすればよいというのではなく、高校入学後もさらに成績が伸びるよう、先を見据えた指導に努めています。要は、勉強とは暗記に終始するだけのものではないということです。丸暗記に頼った勉強法が身につけてしまった生徒は高校入学後、必ず壁に突き当たります。理由は簡単。中学時代と違い、高校での学習内容には丸暗記だけでは対応できませんから・・・。事実、当塾卒業生は進学先の高校で比較的上位層に位置することが多く、たとえば、当塾から高陽高校への進学者数は高陽高校在籍者数の中では毎年1%程度の割合にしかすぎませんが、にもかかわらず、ここ数年連続して国公立大学に進学しています。また、高陽東高校進学者においても過去2名が国立大学に進学しています。私自身、自力で5教科合計300点以上をとれる生徒なら確実に成績を伸ばせる（※現在、入塾時に定期テストが300点以上の生徒で高陽・高陽東不合格者は0人の記録を更新中！）と、自信を持って断言できます。

当塾では入塾テストによる入塾の可否を問うことはしておりません。成績が基準に達していなくても頑張りたいという意欲がある生徒なら、現状の成績にかかわらず入塾希望は極力受け付けるようにしています。

私自身、納得の上で入塾してくれた生徒のみなさんには、「三戸塾を選んで良かった」と言ってもらえるよう、全力でサポートしております。勉強を頑張ってみようという生徒のみなさん、是非とも三戸塾で頑張ってみませんか！

みなさんの参加をお待ちしています。

クラス定員について

中1～中3クラスのいずれも各学年1クラスのみで、定員は中3クラス最大で12名としております。一人一人の学力を正確に把握するため、解答を一方的に読み上げることはせず、授業時間内に全員のテキスト問題の正誤をその都度チェックしながら進めていくには、この12名が限界とっております。なお、中1・中2クラスは在籍メンバーの成績に応じて8～11名程度としています。

クラス指導における、全教科一人指導について

教科担任制ではなく、塾長一人が全教科指導していると聞かれて驚かれる方もいらっしゃると思いますが、平成9年の開塾以来、指導内容についての苦情は一件もございません。憚りながら、授業に活かせる一般教養や雑学については格段の自信を持っておりますし、生徒が「解き方がわからない」からと持参した手持ちの入試問題等にも、その場ですぐに答えるようにしています。月謝をいただいている以上、どの教科であろうと質問にはその場ですぐに答えることが当然の責務であり、それができないようなら塾教師としては失格だと考えております。